



# 南極ものがたり

No.29



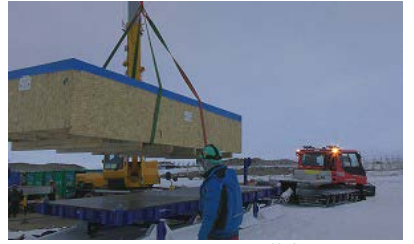
## ◆ 氷上輸送、バルク輸送始まる

しらせ接岸後、物資輸送が本格化しました。56次、57次隊、しらせ乗員が協力して行ないます。氷上輸送では、コンテナや車両など大型物資を雪上車で運びます。22時～6時の深夜に3日間、往復約60便行いました。深夜とはいえ白夜ですので輸送も可能なのですが、さすがに寒く徹夜作業は厳しいものがありました。バルク輸送（燃料ホース輸送）は、しらせから基地の燃料タンクまでホースでつなぎ送油します。6日～8日の3日間、約60時間連続して行い、632tの燃料を運ぶことが出来ました。その後、本格空輸が12日～15日にかけて73便。持ち帰り空輸が21日～23日にかけて66便行われました。

ここで一句 「基地しらせ輸送の絆白夜行」



しらせから雪上車へ



コンテナヤードへ荷卸し



送油ホースの運搬接続



持ち帰り廃棄物



持ち帰り空輸

## ◆ JARE57 隊員紹介

加藤 裕 (30) 越冬隊 気象観測担当 愛知県出身  
気象庁 観測部

愛知県立明和高校から信州大学理学部地質科学科に進学。活断層の研究に携わる。気象庁入庁後は、鳥取地方气象台、出雲空港出張所、札幌管区气象台、南鳥島へ勤務。4月より南極への派遣のため、気象庁本庁勤務となる。昭和基地では、高層気象観測（毎日2:30と14:30の定時にゾンデを放球）やオゾンゾンデ観測（52回／年の放球）に取り組む。山が好きで高校時代は山岳部であった。その頃、第一次越冬隊に参加した山岳ガイドの佐伯富男の本を読み、南極に憧れるようになった。南極の自然、特に何十億年もの歴史を刻む変成岩を見たい。皆さんへは「夢は持つだけじゃダメ。努力が必要」との言葉を頂きました。



観測物資の整理

## ◆ 気象棟

管理棟前の19広場を挟んで向かい側に気象棟があります。基本観測・定常観測に分類され、第1次隊より、基地の気象データを取り続けています。毎年、気象庁より5名の越冬隊員が派遣され、昼夜を問わず交代制で観測にあたっています。観測データを途切れさせないことが最大の使命です。具体的には、風向・風速・気圧・気温・湿度・日射量・日照時間・積雪深を観測装置を用いて測定し、視程や雲、天気、大気現象を目視で確認しています。データは、衛星回線で3時間ごとに世界に配信しています。その他にも、波長別紫外線量や、雲や雪面からの放射量、大気混濁度などの測定。また、高層気象観測のための定時のゾンデ放球、オゾンホール発見につながったドブソン分光光度計による上空オゾン量の測定、オゾンゾンデを用いたオゾンの高度分布測定なども行っています。これらのデータは、気象庁のHPでも公開しています。



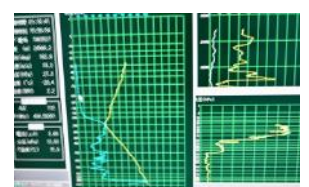
上下の白いアンテナは今は使用せず



端末類がびっしり



放球棟。オゾンゾンデの放球。



ゾンデの追跡



ドブソン分光光度計



全天日射計

2016.2.21.